重文札幌農学校第2農場農機類標本台帳

一般名称: 自脱コンバイン	現地の通称:

資料種別: ◉ 製品-実物 ○ 製品-レプリカ ○ 製品-模型 ○ 製品図面 ○ 写真等 ○ 図書掲載 ○ その他

資料種類:				
	☐ 人力用具	☐ 手押式	☐ 耕耘用	☐ 調製用
	☐ 畜力用具	☒ 乗用式	☐ 施肥播種	☐ 施設類
	☒ 原動機具	☐ 牽引式	☐ 管理用	☐ 機素
	☐ トラクタ具	☐ 定置式	☒ 収穫用	☐ その他

管理プレートNo.

台帳No.

相手先番号等

配置位置メモ

秤量室202

製作者・会社: ヤンマー農機㈱

製造市・国名

製造年_購入年,標本収集年:

使用目的・使用方法等

水稲を刈取り・脱穀・精選して籾精粒をタンクに貯め、わら、ワラ屑を機外に排出する。
コンバインの名称は、Combined Harvester Thresher：「バインダ（通称Harvester）と投込自動脱穀機（Thresher）を合体した機械」の短縮語Combineを語源とする。また、在来の外国コンバイン（直流式）は、麦類は当然として、アメリカ稲作にも使われていたが、日本稲作には使えなかったため、日本の農機業界は全自動脱穀機（自脱）を使って自脱コンバインを開発した。この成果が世界のコンバイン市場に影響し、全機が軸流式コンバインに転換した。

利用経過_収集記録_意義等

農場の稲作で利用、

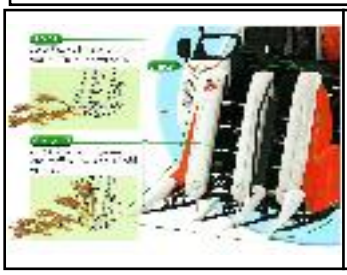
仕様書_解説等

仕様調査中

右に全体図

下１番目図：刈取り部は倒覆株も起す
２番目図：自脱と同じ脱穀機構
３番目図：自脱と同じ精選機構
４番目図：脱穀用の直流型と軸流型

外観特色関連図等



資料の所在

秤量庫

資料管理経過

作業メモ・追記文

農水省は、1968年に稲作の機械化・低コスト化を目指して全県に１台ずつの輸入コンバインを配置して試行させたが、未脱穀・機体外漏れ籾など収穫損失が多く、泥濘で走行不可能など全県で全く使えなかった。日本の稲が短桿種、難脱粒性、高水分である上に、狭い水田区画と軟らかい田面などが理由と言われた。

台帳管理番号 S724